



第 11 回 企業評価書

会計と経営のブラッシュアップ
平成 29 年 3 月 13 日
山内公認会計士事務所

本レジュメの参考資料 (企業会計基準)、(企業評価ガイドライン 日本公認会計士協会)
(捨てられる銀行 橋本卓典著 2016.6 講談社)、事務所で実践した企業評価等
(企業行動の理論と実践 磯村和人外著 会計監査ジャーナル 2016.1~12 速載)

企業評価書

企業評価とは、歴史と現在と将来の評価である。それは、企業の存在価値、現在の経営資源の活用、明日の経営資源蓄積の評価である。
要するに、企業の可能性の評価を行うことである。

I 総合的評価 (企業としての存在価値は何か)

II 定量的評価 (財務的安定と現在の経営資源の活用)

III 定性的評価 (事業性、明日の経営資源の蓄積)

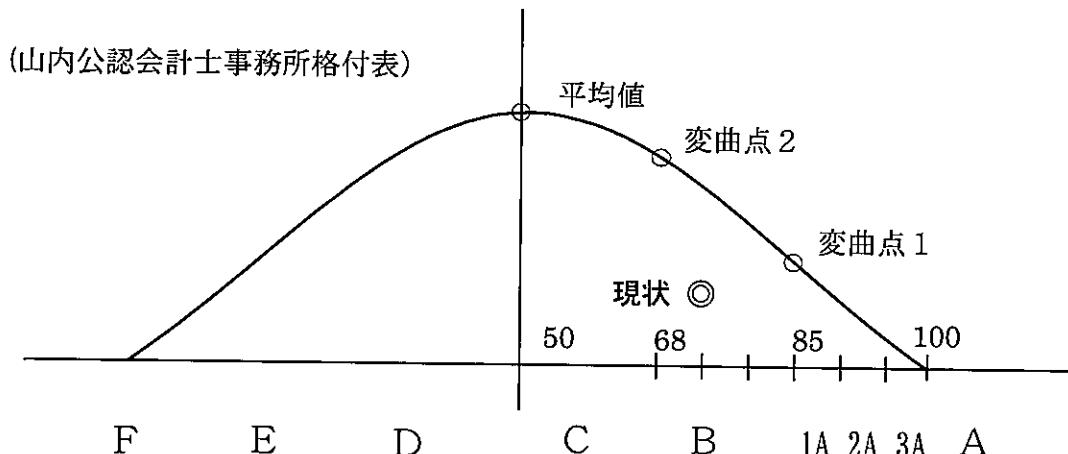
企業評価結果

当社の事業の可能性について評価した結果、現在は2Bクラスの普通企業である。3年後には3Bクラスの普通企業になる可能性がある。

現状と3年後の可能性

1 総合的評価 (11頁)	普通企業3 3B	<1A>	企業の存在価値
2 定量的評価 (21頁)	普通企業1 1B	<3B>	現在の経営資源の活用
3 定性的評価 (31頁)	普通企業2 2B	<1A>	明日への経営資源の蓄積

現状普通2 <将来普通3>



格付	比率 (%)	評価結果説明
平均値	50	イメージ (評点)
3A	95~100	優秀企業 (7)
2A	90~95 未満	優良企業 (6)
1A	85~90 "	正常企業 (5)
3B	80~85 "	普通企業 3 (4)
2B	75~80 "	" 2 (3)
1B	68~75 "	" 1 (2)
C	50~68 "	平凡企業 (1)

評価に当っての判定基準の概要

(1) 総合的(存在価値)評価

企業の存在価値と継続性及び社会性、ガバナンス

(2) 定量的(現状的、物的経営資源)評価

資金及び財務実績数値の検討、現状の事業活動

(3) 定性的(将来的、質的経営資源)評価

人的資源、事業の差別化と発展、明日への蓄積

当社の存価値と経営資源

H29.03.01

(存在価値とは)

企業の存在価値は、企業や経営者が決めるものではない。
それは経営を取りまく関係者、地域や社会、具体的には顧客や取引先、
そして当社の従業員等が決めるものである。

(経営資源とは)

経営者は、企業は預り物であるとの認識を持って、現在の経営資源を活用し、将来の経営資源を蓄積して、経営成果をあげる責任がある。

	項目	定量的・現在的	定性的・将来的
外 部	顧客	受注と販売と品質	
	取引先	損益分岐点の強化	新製品、効率化製品
	地域	地域に対する責任	コストリーダーシップの確保
	業界	課題(人手不足)の改善	変化に対する適応力 課題(旧業態の)の改善
内 部	設備	投資、準備と活用	
	資金	キャッシュ効率	作業・生産方式の革新
	組織	企業理念、人の情熱	資金の安定と蓄積
	研鑽	資格・人材の育成	将来的経営資源の蓄積 経営能力の向上

評価の目安

(I) 存在意義

- | | |
|---|---|
| <p>① 企業としての存在意義</p> <p>② (1)当社の使命感とガバナンス
(2)企業リスクの認識と管理
(1)、(2)の累積評価</p> <p>③ 事業目標の明確化と実践</p> | <p>事業必要性、企業理念、設立趣旨、地域1、2位、ブランド化
(現状の達成度 70~100%)</p> <p>自律性、組織グループ性、外への配慮
(現状の達成度 70~100%)</p> <p>事業の安全性、人的保全
(現状の達成度 70~100%)</p> <p>明確さ、全社全員性、向上性、地域社会性、人的待遇
(現状の達成度 70~100%)</p> |
|---|---|

(II) 現在資源活用

	C	1B	2B	3B	1A	2A	3A
	10%未	10~20未	20~30未	30~40未	40~50未	50~60未	60以上
① (純資産比率)と資産の活用 資産の活用レベル($\triangle 1 \sim \triangle 2$)	1%以下	2%	3%	5%	7%	10%	10%超
② (収益性)・資金評価							
③ (1)資産、負債の状態 (24頁) (2)財務リスク (1)、(2)の平均	△40	△30	△20	△10	0~△10	ナシ(0)	
	×××		○		○○		○○○

(III) 明日の資源蓄積

① (1)企業の持続性の点検 (2)事業及び投資の計画性	純資産比率(平均 30%以上)、施設設備の将来性、事業将来性 3か年計画、長期計画、						
	(1)弾力性 2 (1)の場合は (2)を 1 ランク up						
	1A	(2)最適経営率	140%以上	1A	"	130%以上	3B
		(2)	"		"	110%以上	2B
					"	110%未満	1B
③ 人的能力(充足、待遇、育成、年齢) (1)、(2)、(3)の平均	(1)月次	5日以内	1A	(2)最多年齢層	50代	2B	(3)充足、育成
	"	7日以内	3B	"	40代	3B	適正 2A
	"	9日以内	2B	"	30代以下	1A	育成 1A
	"	10日以上	C				不足 3B

高収益企業の特性 (2016年版 中小企業白書から)

1. IT投資で生産性upを図っている

- (1)高収益企業はIT投資等で営業力、売上拡大を図っている
- (2)自社の経営状況を自社で適切に把握している
- (3)IT導入による業務プロセス・社内ルールの見直しを行う

	高収益企業 %	低収益企業
業務プロセス	65.9	43.2
社内ルールの見直し		
目的・ビジョンの明示	58.7	55.0
各部門・従業員からの声	49.3	28.3
計画・戦略策定	48.5	26.1
IT・改善・社員教育	37.6	19.1

2. 海外展開で収益を拡大している

- (1)国内市場の縮小に事前対応
- (2)海外中間層・富裕層等の需要の獲得
- (3)海外直接投資への挑戦

3. リスクマネジメントに取組んでいる

- (1)セキュリティ対策
- (2)事業継続計画
- (3)人材獲得・育成計画
- (4)経営資源獲得計画
- (5)取引先との関係強化
- (6)新規取引先の開拓
- (7)業務効率の改善

I 総合的評価 (存在価値は何か)

次の点について、存在意義の観点から総合的評価を行った。

1. 企業としての存在意義

- (1) 当社の企業理念、社是
- (2) 存在理由、設立目的、
- (3) 事業の特色、社会的役割

(1)～(3)を考慮して、存在意義とした。(参照)

2. 当社のガバナンスと企業リスク

- (1) 組織の目的
- (2) ガバナンスとルール
- (3) 企業リスク管理体制

(1)～(3)を考慮して、ガバナンスの評価とした。(参照)

3. 事業目標の明確化と実践

- (1) 企業理念の落とし込み
- (2) 事業目標の設定と地域性、社会性
- (3) 企業目標の実践

(1)～(3)を考慮して、事業目標の評価とした。(参照)

(平成 28 年度評価)

項目	比較水準		現 状		格付(評点)	<3年内の可燃性>
		%		%		
① 存在意義と役割	100		80		3B (4)	<1A>
② ガバナンスとリスク	100		80		3B (4)	<1A>
③ 事業目標の明確化	100		80		3B (4)	<1A>
全体評価			240		3B (4.0)	<1A>
			(80.0)			



人と仕事の価値とは何か

平成 28 年 6 月 1 日 (水)

「人はパンのみに生きるに非ず」とは旧約聖書にあるモーゼの言葉である。イエスが、四十日間の断食の後、悪魔の最初の誘惑を退けるために、この言葉を旧約聖書から引用したといわれている。人は**物質的満足**のみを求めて生きるのではなく、**精神的充実**をはかってこそ生きるということであろう。

人が働くということはまさにこのこと、心の糧を得るためだと思う。

企業が人を雇うとき、人的資源としての**労働力**のみを雇うわけではない。企業にとっての**コスト**としての賃金は、人からみたときのそれは、**所得**としての賃金であり、**生計の資**である。これが**原材料や機械を調達すること**と**労働力を調達すること**の大きな違いである。そして、人にはほかの物的資源にはない**調整し、統合し、判断し、想像する能力**があり、それは人が単なるコストではなく、所得としての賃金を得て人間としての生活を充実させ満足を得る。

この点において、企業は人を雇用する必要があり、人は働くことの意味をそこに見出さなければならない理由があると思う。

また人の側から言えば、人は働くかなければ道徳的にも肉体的にも堕落する。ところが、人が行っている現在の仕事は、機械による自動化によってどんどん奪われつつある。これらの**急激に省力化されつつある仕事**は本来人の仕事ではなかつたと単純に考えるべきだろうか。しかし、現在人が行っている仕事の中には省力化できる部分が余りにも多い。社会の流れは、**第4次産業革命**といわれる機械による製品やサービスの提供が急速に進みつつある。AI やロボットが更に普及する 10 年後にも、人にしかできない仕事を、人や企業が創出し続けることが人の仕事を維持することの条件である。

京都府知事を 28 年の長きに渡って務めた蜷川虎三知事が、議会答弁で度々活用したという中国古代の兵法書尉繚子（うつりょうし）は、戦の要諦は天文や陰陽による占いではなくて、あくまで人事を尽くすことだ、「占いよりも人事をつくせ」と人の能力を徹底して認めている。人の能力は当時の神より高いと古来の兵法家は言っているが、この人事の非人間的部分、機械的部分が益々拡大していく、社会における**人間的能力**はどこまで維持できるのだろうかと心配になることもある。今や企業の**競争環境**はがらりと変化している。しかし、IoT で加速する**デジタル革命**に企業が対応できるのは、**人間的能力**のみである。

II 定量的評価

(現在の経営資源は、充分に活用されているか)

次の点について、現在の経営活動の観点から定量的評価を行った。

1. 純資産比率と資産の活用

- (1) 純財産（時価・簿価）の比較
- (2) 純財産比率の現状と目標値
- (3) 資産の活用の充分性

(1)～(3)を考慮して、純資産等の評価とした。(参照)

2. 収益と資金の状態

- (1) 収益性の現状と目標値
- (2) 資金状態の現状と目標値
- (3) 収支の課題

(1)～(3)を考慮して、収益等の評価とした。(参照)

3. 資産の実在性と負債の網羅性と財務リスク

- (1) 会計基準の明確性
- (2) 資産の実在性
- (3) 負債の網羅性
- (4) 財務リスク

(1)～(4)を考慮して、財務の評価とした。(参照)

(平成 28 年度評価)

項目	比較水準	現 状	格 付(評点)	<3年内の可能性>
	%	%		
① 純資産比率と資産活用	100	68	1B (2)	<3B>
② 収益性・資金評価	100	75	2B (3)	<1A>
③ 資産、負債と財務リスク	100	75	2B (3)	<1A>
全体評価		218 (72.7)	1B (2.7)	<3B>

時価純資産評価

当社の簿価純資産は、基準日（H28.9.30）現在、267百万円である。
それに対し時価純資産（H29.3.31）は、353百万円と86百万円上回っている。

(評価の比較)

科 目	時価純資産	簿価純資産	(単位：百万円) 差 領
流動資産			
有形固定資産			
無形固定資産			
投資その他の資産 (内関係会社株式等)			
資産合計			
流動負債			
固定負債			
負債合計			
純資産合計 (純資産比率%)	(13.6)	(10.2)	

時価の純資産の評価方法

評価方式は、法人税法基本通達9-1-14（上場有価証券以外の株式の価額の特例）による。

- (1) 土地及び土地の上に存する権利の評価（時価を求める）
 - ① 路線価のあるもの……0.75（1.33倍）で還元して、公示価格と比較し、評価額を決定する。
 - ② 路線価のないところ……相続税の固定資産税評価額(倍率又は、ゴルフ場倍率を乗じた後)を0.65で還元して、公示価格等と比較し、評価額を決定する。

但し、その評価額が、不適当（低すぎる等）なものは簿価とする。
 - ③ 3年内取得のものは、取得価額とする。
- (2) 建物は、固定資産税評価とする。簿価を基準とはしない。（但し、台帳未登録は簿価で加算する）
- (3) 上場有価証券については、評価時点の価額により評価する。
- (4) 評価差額に対する法人税等は控除しない。
- (5) 類似価額法式については、相続税財産評価基本通達による。
- (6) 別表5(1)の主な簿外資産・負債を考慮する。
- (7) 子会社、関係会社株式等の評価は法基通9-1-14による。

財務関係要約

1. 資産の実在性

科 目	金 額	備 考	
	千円		
受取手形		長期滞留債権(不渡手形)	※1
完成工事未収入金		"	※1
計	①		

※1 長期滞留債権が多く、貸倒引当金の計上又は貸倒処理すべきである。

2. 負債の網羅性

科 目	金 額	備 考	
	千円		
賞与引当金		H28/9 未引当	※1
役員退職慰労引当金		H28/9 未引当	※1
未払給与		月末未払分未計上	
工事未払金		H28/9 請求書未処理	
計	②		

※1 引当金を計上し、会社の負債として認識すべきである。

3. 純資産修正

金 額	比 率
	%
H28.9 純資産	
(1)+(2)	
差引計	
(資本金)	

4. 財務リスク

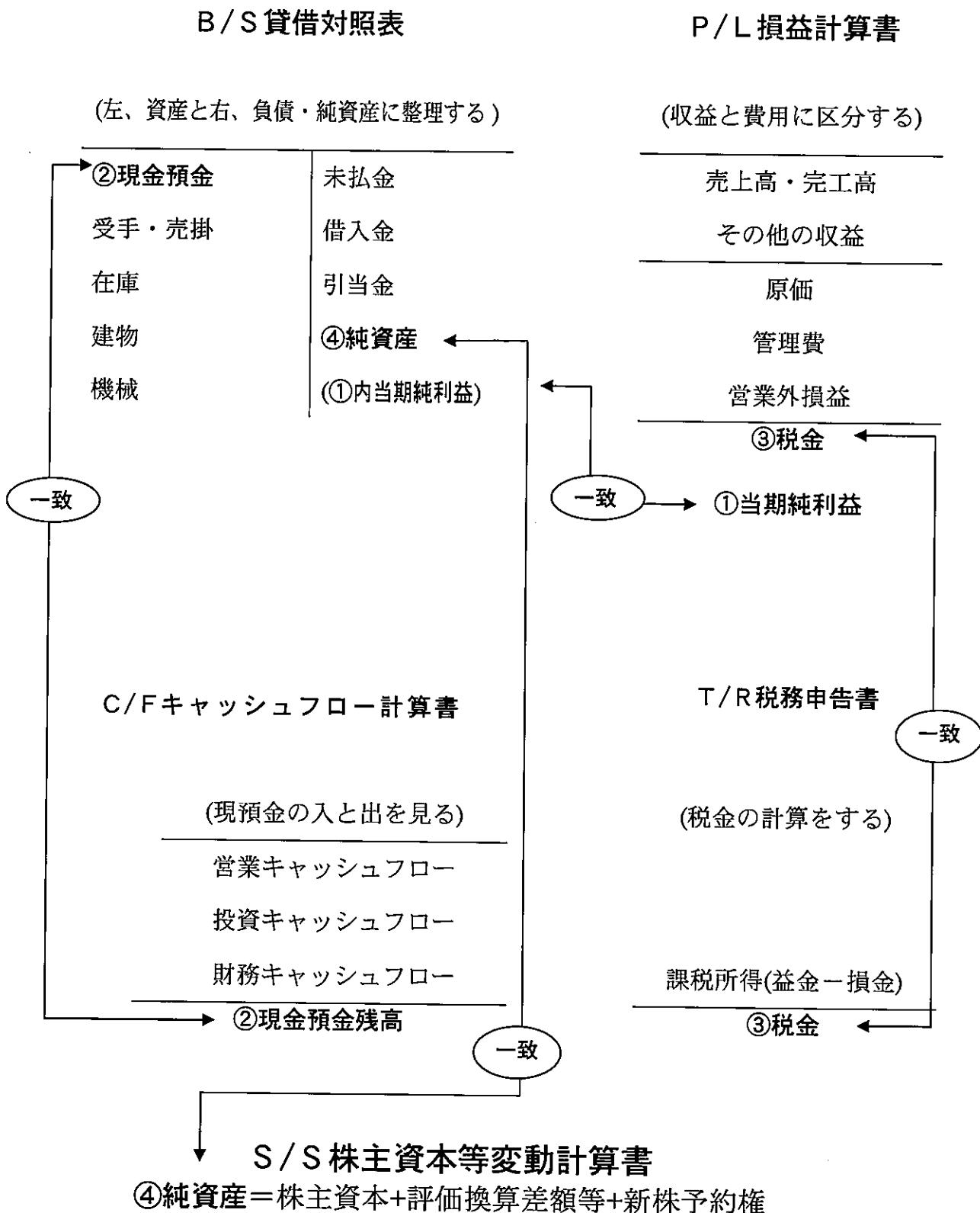
会計方針、基準を明確にし、会社の財政状態を正しく表わす会計処理を行うべきである。そのためには、諸規程の整備とともに、資産の適正な管理、運用と負債を網羅的に把握、認識する必要がある。

5. 前 5 年間の平均経常利益

千円

会社を強くする方法

次の①～④を、相互に、正しく、一致させることが会社を強くする



Ⅲ 定性的評価

(明日への経営資源の蓄積は行われているか)

次の点について、当社の将来性の観点から定性的評価を行った。

1. 企業の持続性の点検

- (1) 経営基盤の充実性
- (2) 差別化（製商品、生産、調達、人材）
- (3) コストリーダーシップ
- (4) 地域性、社会性

(1)～(4)を考慮して、持続性の評価とした。(参照)

2. 損益分岐点の弾力性

- (1) 制約条件
- (2) 損益分岐点の弾力性
- (3) 最適経営率
- (4) 発展、成長性

(1)～(4)を考慮して、損益分岐点の評価とした。(参照)

3. 人的生産性

- (1) 待遇
- (2) 人材の充足
- (3) 育成と教育
- (4) 月次決算の早期化、充実
- (5) 従業員の経営知識の適切さ

(1)～(5)を考慮して、人的生産性の評価とした。(参照)

(平成 28 年度評価)

項 目	比較水準 %	現 状 %	格 付(評点)		<3年内の可能性>
			2B	(3)	
① 企業継続性と計画性	100	75	2B	(3)	<3B>
② 損益分岐点 (事業弾力性)	100	80	2A	(6)	<3A>
③ 人的能力(充足、待遇、育成、年齢)	100	80	3B	(4)	<1A>
全体評価		235	2B	(3.7)	<1A>
		(78.3)			

企業の持続性

会社を持続的に成長させるためには、一つには物的な財産である。しかし、単に財務諸表に表示されている財産、目に見えるものだけでは不十分である。更に、当社らしさを明確にした戦略、長期的な持続的成長を実現する見えない資産（当社らしさ）も明確にし、将来に渡つて、企業価値を実現する道筋を構築しなければならない。

(1) 物的な財産

現在の純資産比率は %程度と貧弱である。（21～22 頁参照）

しかし、当社は PC 工場とその敷地（ 坪）を有しておりこの活用は当社の将来性を約束する。この敷地上の生産工場を充実する必要がある。

(2) 事業機会と差別化

建設業界は、人手不足と品質低下が問題となっており、在来工法や従来思考には限界が見えている。

当社は、PC の工場生産による省力化と品質向上を目指している。当社の事業目的の推進と事業の発展と成長が業界改革の強力な推進となり得る。

(3) 人的な財産

当社の事業の優位性、将来性を実現するために、人材の充足と強化育成を図るべきである。特に人材には安全性が最重要課題であり、この点の留意が必要である。

1. 競争優位の確保とコストリーダーシップ

(1) 競争戦略

業界内で防衛的な地位を作り、競争要因に対処し、企業の投資収益を大きくするための攻撃的、防衛的活動（マイケル・ポーター）

(2) ビジネスマodel

戦略を実行するために、組織が構築するビジネス上の仕組み
企業の価値提案、経営資源、ビジネスプロセス、利益を生み出す方程式など

(3) ファイブフォース

企業の競争力は、5つの競争要因の影響を受ける

外的要因①競争企業とのポジション争い

②代替製品や代替サービスの脅威

③新規参入の脅威

内的要因④仕入先の交渉力

⑤顧客の交渉力

(4) 5つの競争要因に打ち勝つための3つの基本戦略

この5つの競争要因に打ち勝つためには、3つの基本戦略がある

①コストリーダーシップ

②差別化

③集中

(5) コストリーダーシップの有効性

「コストリーダーシップ」とは、価格の最優位により他と差別化することであり、「その他の差別化」はコスト以外によるものである。企業は差別化にみがきをかけ、独自のポジションをマーケットで確立する必要がある。

①ローコストオペレーション

②利益構造の把握

③コストリーダーシップを取るための戦略

④差別化戦略の取り入れ

2. 競争優位と差別化戦略

「差別化」とは、5つの競争要因に対応し、業界平均以上の収益を確保し、安全な地位を業界内に築くという戦略である。「差別化」に集中することによって、競合他社からの攻撃を回避し、業界で優位な立場を築くことである。

(1) 差別化とは

- ①自社の製品やサービスを差別化し、業界の中でユニークとみなされるものを創造する
- ②差別化により、製品数が増え、多角化を図る
差別化要因は、管理システム、オペレーション、独自資源に分類される、しかし、差別化は時間とともにその力、強味を失う
- ③複雑性が高まると、自社が何を得意としているかが見えなくなる
- ④差別化を成功させるコア要因は何か
- ⑤成長するなかで、何故、差別化のコアが不明確になるのか
- ⑥差別化を持続する方法は何か、渡り歩くことができるか

(2) 自社の最も強力な差別化は何か

本当の差別化か

- ①本当に独自性があるか
- ②競争者との比較可能か
- ③コア顧客との関係性
- ④企業内の合意、理解

(3) 良品計画の事業展開

- ①P B 開発「わけあって、安い」、ブランドや包装でなくてモノを選び取る(1980年)
- ②過剰で、華美な豊かさに抵抗する反体制商品
- ③素材の選択、工程の点検、包装の簡略化など、ムダの排除
- ④常に、無印良品とは何か、という問い
- ⑤ブランド価値を伝達する直営店の展開(1983年)
- ⑥国外への出店(1991年)
- ⑦慢心、大企業病、近視眼的に対する対策、ブランド弱体化、競争他社の台頭に対する経営改革(2001年)

(10年後の対策)

- (1) 人口減少
- (2) 品質の向上、強化
- (3) リノベーション能力を準備
- (4) 建替の時期をとらえる。

7. コアコンピタンス経営

コアコンピタンスとは、競合他社が模倣することの困難な自社固有の中核的な組織能力である。

それは、ポーターの「分析重視の戦略理論」とは一線を画す理論である。

すなわち戦略（絵に描いた餅）があって、実行する組織（優秀な従業員）が重要である。そして初めて成果に結びつくと言える。これは経営戦略を企業の資源の観点から考えるリソース（経営資源）、ベースド（に基づく）、ビュー（理論）、企業の戦略を自社の経営資源の特性から理解しようとするものである。

次の4つの観点から見た経営資源の具体化である。

- ①広範かつ多様な市場に参入する可能性をもたらすもの
- ②戦略製品が顧客にもたらす価値に貢献するもの
- ③ライバルには模倣することが難しいもの
- ④自社の今日の成功の原因

これは組織の能力であるが、さらに一步すすめて、「除だった能力」、「他社に真似のできない能力」が必要ということである。

(1) コアコンピタンスと企業の成長

単に顧客の声を聞くというだけでなく、その中から重要なものを見分け、それを反映した新サービスを企業で展開してこそ、他に真似のできない能力と言える

(2) コアコンピタンスは組織全体の資産

コアコンピタンス能力は経営資源であり、市場における優位性、差別化の源泉となるような能力、である。その例は、「ソニーの小型化技術」、「ホンダのエンジン技術」、「ヤマトの小口貨物物流システム」、「マックのメニュー開発能力」、「トヨタの生産システム」などがある

(3) 競争力のある製品を継続的に生み出すロジック

コアコンピタンスは長期にわたって企業の優位性を支える

(4) 過去ではなく未来を考える

これは将来を予測することではない。未来のための競争、将来の企業の発展を目的とする（Competing for the Future）

ドラッカーは、「未来を予測するは、自ら作り出せ！」と言ったが、企業が長期にわたって繁栄するためには、未来に焦点を合わせて、未来のための競争に勝つために必要なことを考えるべきである。（ハメリ、プラハード）

(5) 平成建設のケース（内製化というビジネスモデルの実現）

- ①一流の大工で、日本一會社を作る（1989年、平成元年設立）
- ②すべての業務プロセスを一貫して内製化し、外注に頼らないビジネスモデルの追求
- ③建設業の問題点は受注産業、「現場は屋外、工事ごとに組織を編成、終了後解散」では、責任ある良い仕事はできない
- ④ゼネコンは施工管理だけでは良心的な仕事を続けられない。問題点は実際の工事は下請け、孫請け（人件費無責任）
- ⑤モラルの問題、下請は施主に目を向けていない重層的な業界構造
- ⑥職人の不足、技能向上不足、老齢化、危険性、若い人に魅力がない
- ⑦③～⑥の問題、建設業界の悪弊の克服と業界の将来への危機感
- ⑧高い建設技術、高い品質の追求、高価格を受入れる顧客の開拓
- ⑨地域特化戦略、営業力強化、多能工の育成、情報システムの充実
- ⑩人材育成のための採用、教育の徹底、労働集約型産業だから当然
- ⑪価格競争を避け、見積り競争、安価受注、公共工事は行わない
- ⑫売上高 150 億円、社員数 560 名（2015年）

顧客価値	設計、建設からメンテナンスまで品質の高い製品とサービスを提供する
戦 略	差別化と地域特化の個別な戦略、仕組の差別化、人間の差別化
ビジネスモデル	業務プロセスを一貫して内製化 ゼネコンのアウトソースモデルとは対極
経営資源	大工、多能工などの人材育成、情報システム、時間がかかることに挑戦
組織能力	強い営業力で継続受注、効率的な業務遂行力 社内が明るく、活気がある

売上の 50% 賃貸マンション
 " 30% 注文住宅とリフォーム
 " 20% 商業物件や店舗

(6) リソース・ベースト・ビューと外部環境

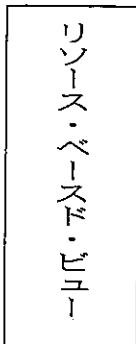
企業は生産資源の集合体であり、外部環境に対する機会と脅威、を明らかにする。

企業内部の蓄積

- 稀少性の活用
- 模倣コスト、独自性
- 組織体制、文化
- 競争優位の持続
- 経済的パフォーマンス
- 人的、物的資産

企業外部環境

- 市場
- 産業状況
- 競争環境の厳しさ
- 未来への発展



価値あるもの（平成建設）

1. 日次決算
2. 資材の回転率を上げる、型枠を30回（ふつうは3回使う）
3. ムダを省く（キッチンとメンテナンスをして、ていねいに使う）
4. 運搬の効率化（コストダウンの要）
5. 労働分配率が高いほどいい会社
6. 人件費は、支払利息や減価償却費とは違う
7. 人件費は投資
8. 企業は人件費を支払うためにある
9. 会議は「必要最小限の人数と時間で」
10. 多能工とは、複数の会社業務をこなせる人
11. 仕事に連続性をもたせる
12. 世の中に安くいいものはない、それをさがすムダ
13. 相見積は受けない、安価受注はしない
14. 世の中には、安くて悪いものと高くて良いものしかない
15. 余分な労力と時間をかけない
16. 中小企業の生きる道はスペシャリスト
17. その人にしかできない仕事

営業の方法（ターゲット情報、人の知らない情報）

1. スペシャル・アドバイザー
2. 提案競争であって、価格競争ではない
3. まず、営業（よい噂と悪い噂）、オリジナル
4. 基本（守）、変形（破）、発展（離）、オリジナル
5. 必要な上位5%をターゲットに
6. 東京では上位3%が、全金融資産の65%を所有
7. 世の中とは、少数者が大きく持ち、多数が少なく持つ
8. 満ち足りた人には、「こういう家なら住んでみたい」を提案
9. 日常の家と非日常の家
10. 不景気の今こそ
11. 5つの条件
 - ①元気がよく、明るくて楽しい人、そして聞き上手
 - ②毎日精一杯生きる人、自分で環境を作る
 - ③自分の商品に絶対の自信を持つ人、昔の自慢話はしない
 - ④数字に気を使う人、客観的に状況と展望を計る
 - ⑤自己管理、悪いくせをつけない人、いいくせをつける

平成建設の部署など

- | | |
|----------------------------------|---|
| 1. 営 業 | 情報戦、ワンランク上に行く |
| 2. 不動産 | 建ててからの仕事、入居のあっせん、入居者
サービス
賃貸マンションの管理業務、クレーム処理、
リフォーム |
| 3. 総 務 | 会社とは森のようなもの、いろんな人、部署
の動きやすい環境づくり |
| 4. 経 理 | |
| 5. 企 画 | コンサルティング業務、完成見学会の運営 |
| 6. デザイン部 | お客様の意思をくみとり、表現する、仕事の
方向性を表現する |
| 7. S E | 情報共有を効率的かつ包括的に実現する |
| 8. 設計部 | お客様と現場のつなぎ、お客様の今後の事業
展開を考える |
| 9. 大工工事部 | 人を育てながら利益を出す、
自己完結型の大工 |
| 10. 工務部 | 職人が所属する部署、実際に現場をみる
単能工ではなくて、マルチ職人を目指す |
| 11. 能力の高い若手の採用は必要不可欠 | |
| 12. 採用の最低条件 | 明るい人、楽しい人、バカになれる人、フッ
トワークが軽い人、コツコツ努力する人 |
| 13. 流れる水は腐らない | |
| 14. 道徳なき経済は犯罪、経済なき道徳は寝言である（二宮尊徳） | |
| 15. 相手をきっちり評価する | |
| 16. 信頼されずに、信用されること（相手を裏切らない） | |

8. リソース・ベースド・ビュー（経営資源の評価）

リソースは経営資源、ベースドは“基づく”、ビューは見方である。企業の戦略を他社との相対的な関係ではなく、自社の経営資源の特徴から理解しようとする考え方。経営戦略を企業の資源の観点から考え、見るということ。

(1) 経済的なパフォーマンス

競争環境が非常に厳しいながら高業績をあげる企業、恵まれた環境の中で標準以下の成果しかあげられない企業、この原因は何か。次の質問に肯定的回答ができるか

- ① 経営資源は価値があるか、活用されているか
- ② " 稀少か、他社に抜きんでているか
- ③ 模倣コストは大きいか、模倣困難か
- ④ 組織体制は適切か、人的能力は強力か
- ⑤ 競争優位は持続性があるか、過信していないか
- ⑥ 標準以上の経済的パフォーマンスがあるか

(2) 経営資源の管理

① 経営資源への投資と蓄積

新規出店投資だけでなく既存店の改装や配置替

② 経営資源の価値の向上と経営持続性

ライバルの模倣、代替

③ 経営資源の充分な活用と構築している戦略とビジネスモデル

(3) VRIO フレームワーク（バーニー）

① 経済価値に対する問 (Value)

② 稀少性に関する問 (Rarity)

③ 模倣困難性に対する問 (Imitability)

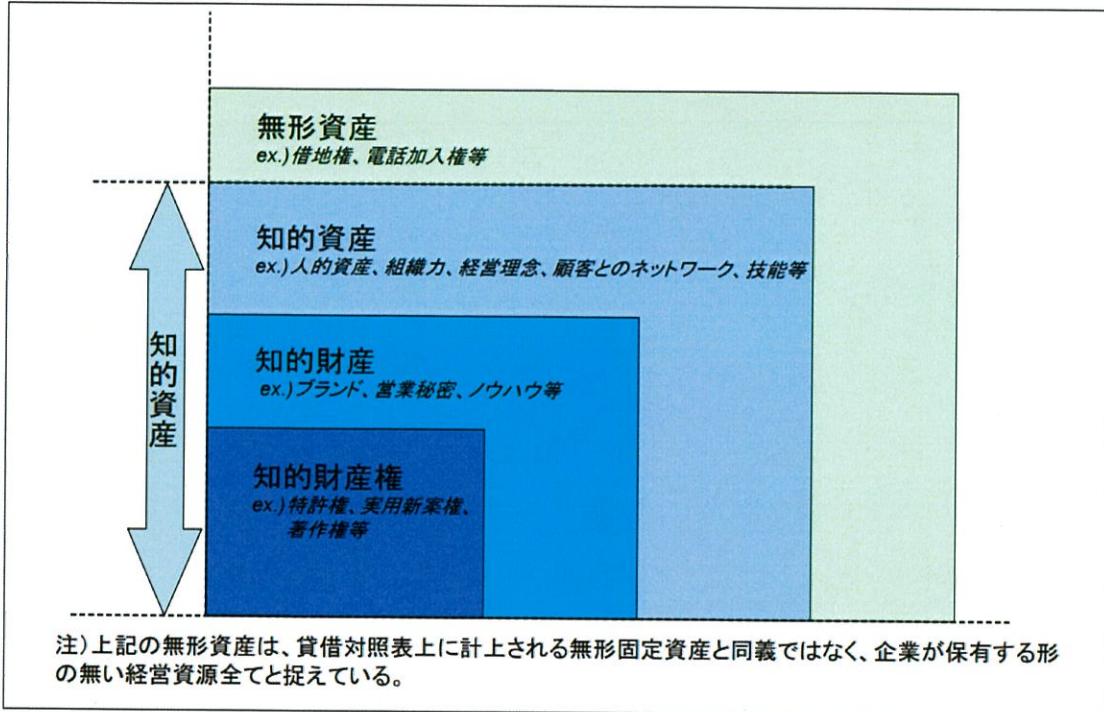
④ 組織に関する問 (Organization)

(4) コア・コンピタンス

これは、他社には真似のできないやり方で顧客満足を実現することを可能にする。その企業独自の中核的な能力を意味する。コアコンピタンス経営をゲイリー・ハメルに先立ち研究したのは、ジェイ・B・バーニーである。

非財務資産の充実と強化

【知的財産権、知的財産、知的資産、無形資産の分類イメージ図】



(出所)中小企業基盤整備機構(2007)「中小企業のための知的資産経営マニュアル」P7

知的資産の事業における役割

知的資産とは、競争力の源泉であり、人材、技術、技能、ブランド、組織力、企業理念、顧客との良好関係など、財務諸表に現われにくい経営資源の総称 —非財務情報— である。それは企業における付加価値の創生に向けていかに構築されているかである。

知的資産の分類

(古賀智敏著「知的資産の会計」2005)

人的資産 — 従業員が退職時に一緒に持ち出す資産

(イノベーション能力、ノウハウ、経験、モチベーション...)

組織資産 — 従業員の退職時に企業内に残留する資産

(文化、システム、顧客満足度、取引先との関係、組織のサービス力...)

(11)

(13)

13

第11回 われわれの計画は何か？

(25) (26) (計画と未来)

会計と経営のブラッシュアップ
平成29年、2月13日
山内公認会計士事務所

1. 未来は予測できないことの認識(ドラッカー 5 important questions から要約)

計画で未来を決めるることは馬鹿げたことである。セントオーガスティンが言ったように、「未来を祈ってもよい、しかし成果のために働け」である。ドラッカーが言うように、「計画どおりにはいかない。計画どおりにいくと思うのは愚か者である。未来は誰にもわからない。」

2. ヴィジョン(目標)は行動を決めることができる

一つの目標、
いいむか

目標は包括的で、一つのものである。もし5つの目標があれば、なにも無いのと同じである。例えば、「健全な社会の構築と人生の質の向上」といった感じのものである。しかし、目標は結果に対する行動と資源の効率化を絞り込む。そして未来を形造ることができる。

目標は行動と資源の効率化を
絞り込む。

3. 博物館の例

ヴィジョン： 世界的な多様性のある文化遺産による人々の心の向上

ミッション： 人々をここに集める

ゴール1： 文化遺産の収集活動

ゴール2： 展示による人々の新しい発見の促進

ゴール3： 来館する人々の拡大のための活動

ゴール4： 文化遺産及び設備の維持管理

ゴール5： 長期的な財政基盤の維持

4. 効果的な計画のための5つの要素

廃棄： 時間を使わない仕事、対象の決定、中止する仕事をさがす

集中： 集中が仕事を強化する、最大の成果は集中から得られる

イノベーション： 明日のための本質的な仕事、明日のための機会を見つけ、働く

リスクテイク： 極度に保守的にならない、長い目で見て正解に向かって失敗から学ぶという態度

分析： 実施したことの分析、実施したことの評価と改善

会員登録
会員登録
会員登録
会員登録

13-2

No.

Date

Next Society

P. 1

情報社会の要とXとYの社会

1. 黒色の次の社会 - 工業化とアーバン化への好適性
持続可能な社会 = 経済社会

IT革命の後 - e-commerce Fin-tech
自動運転

2. 人口構成変化と雇用形態の変化

高齢者人口の急増と若年人口の急減

70年代から若年層を前掛と位置づけた

若年人口の急減は、12-24歳の崩壊に繋がることで原因

3. 消費市場は、若年市場中心から

中高年中心の市場となる

4. 知識社会的特徴

(1) 知識社会層の若年層移動

(2) 上への移動や若年層化(XとY提供社会)

(3) 若年社会、少子化社会(成り立つ社会の並び)

(4) IT社会の影響を受ける

技術(ソーシャル・マーケット)

7-22-1992 企画の本車原

p.241, (P.D.)

1. いわゆる 15 年後の 942-1992 企画は、資源開拓と一体性を保つ
(構成編成 2-15 年) 所有、支配の形態を定め

2. 地図のトマト地図計画は、現在の近未来計画

既存の資源計画と下層の独立地域計画

資源計画と人口計画、名目と実質の開拓計画
七五三七

3. 地域社会の小・中長期

将来の社会的問題



4. 年齢と移動問題

年齢 - 財政問題
不足

(財政と劳动力不足の問題)

少子化 - 労働力不足

5. 今後 50 年内、日本が年間 25 万人の移民を必要とする。

若年人口減少を防ぐために、効率を追求する。

13-2-3

No.

Date

人口変化傾向(七ヶ所)

P.250 (P.17)

1. 人口年齢構成の方向性に変化する

1920年半ばの最初から3次 (第一次大戦後の最初遷移上昇)

1940年代のペーパー人 (第二次大戦の本格的な成長と日本)

出生率は 1.8~3 3.6 ~

(D.S. 1960年から年齢構成反する。) 3次が終った。

出生率は 3.7~3 1.8 ~と急速

また、1970年代後半から現在まで 1990年からのペーパー人

2. 人口構造の変化① Next Society における

最高齢化の原因であり、最も予測された背景である

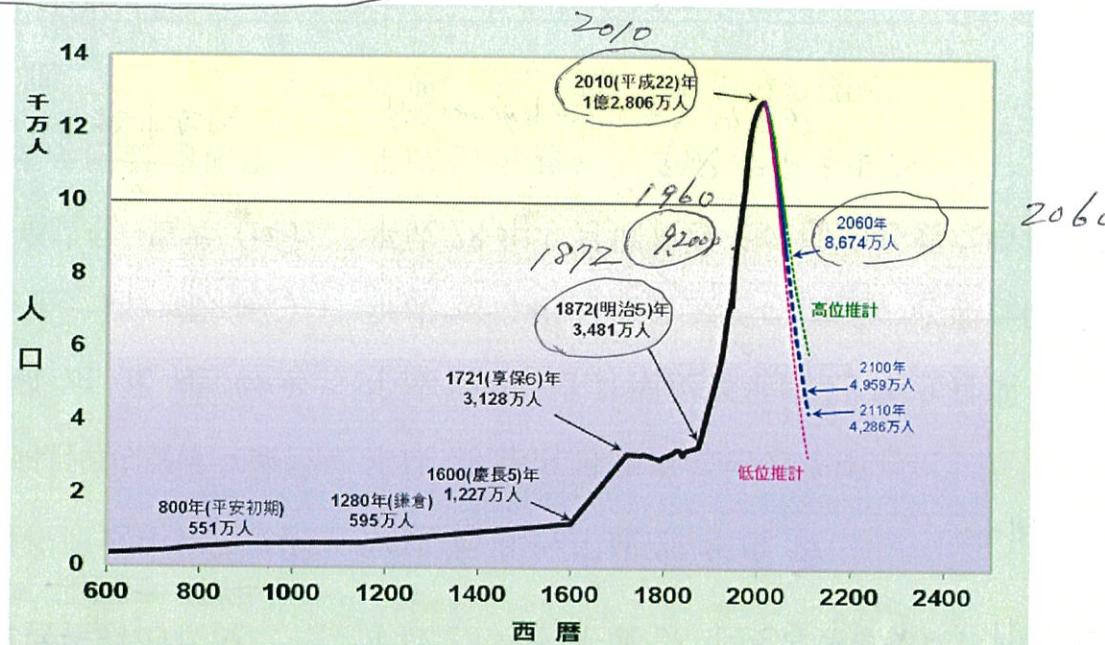
3. 銀色社会中の若の減少

工場労働者は、50年前には労働人口の35%を占めていた。

2000年の現在、100%の15%程度。

森田：これは長期的な日本の人口推移をグラフにしたものです。西暦600年から2200年までの人口の推移を見ると、平安時代が500万人強、関ヶ原の戦いの時で現在の10分の1の1200万人、江戸時代に3000万人を超えて、明治以降、急激に増えました。2010年まではドカンと上がったわけです。ところが、そこが頂点で、これからジェットコースターのフリーフォールのように急減していきます。

日本人口の歴史的推移



資料：国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」(1846年までは鬼頭宏「人口から読む日本の歴史」、1847～1870年は森田俊三「人口増加の分析」、1872～1919年は内閣統計局「明治五年以降我国の人口」、1920～2010年総務省統計局「国勢調査」「推計人口」)2011～2110年国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」(平成24年1月推計[死亡中位推計])。

木本：徐々にじゃなくて、急激に下がる原因は何でしょう。

木本武典
東洋経済オンライン
森田利氏から

森田：これは、少子化につきます。

木本：基本の部分を聞きますけど、そもそも、どうして少子化になっているんでしょうか。

森田：結婚する人が少ない。結婚しても子どもを作らないし、作っても1人か2人しか作らない。経済成長が鈍って多くの人が正社員になれなくなっているので、子どもを産み育てる経済的余力がない。産んで育てようにも、女性が働きに出るための保育所が足りない、という流れです。また、女性が高学歴化して、かつては多くの人が20代で第一子を産んでいたのが、今では過半数の人が30歳を過ぎるようになったので、4人も5人も産めません。そういういろいろな理由が重なっています。

人口が減る要因は以前からあった

25 The Supervisor

作成日

作成者

13-8

..

1 Supervisor has two peasant. One peasant is the "master" of old who was the real boss. Other is the old "lead man", he had the forward position in the gang.

2 These works ~~have been~~ powers have been taken out every thing.

(1) The organization of the men under him → the industrial engineer

(2) The management of people, their selection, their placement, their training, has been taken over → the personal department, specialist

(3) Inspection, quality control, cost accounting →

(4) The authorities of his men → the union

ドラッカーへの旅

(知の巨人の思想と人生をたどる)

著者 ジェフリー・A・クレイムズ 訳者 有賀裕子 2009年8月30日発行 ソフトバンククリエイティブ株式会社発行

第14章 リーダーにとって何より重要な仕事 (256~頁を読んで)

リーダーにとって何より重要な仕事は、「嵐を察知してそれに耐えることできる組織、いや嵐を吹き飛ばすような組織を築かなくてはいけない」と言う。

組織が成果をあげるだけでなく、長く繁栄を続けるためには、経営陣は迫り来る危機の一歩先を歩いていなければならない。「イノベーション、つまりたゆみない自己革新」が欠かせないとドラッカーは言う。

- 「あらゆる局面で成果をあげるリーダー」であるために何より重要なのは、「人の意見を聞こうという意欲と、そのための能力と習慣」だという。—
「その気になれば誰でもできることだ、口を閉じてさえすればよいのだから」
(263~264頁から引用)
- 「任務の重要性に比べて自分がいかに小さい存在か」を自覚する力である。
(264頁から引用)
- 自分の目標よりも組織の目標を重視する姿勢。
有能な人材を恐れず、むしろそのような人材に勇気を与える。
(272頁から引用)

120年前に設計された八角形の組織構造は、もう25年はもはい。(10年)
法律的には許されても、構造は古いは經濟的は許されい。

八角形の組織構造は、各部門の組織構造を基本に組み立てれる。
それは、情報の中継器（シーケンサー）、中継器は情報の伝送を止めたり
半減する
これからは、ネットワークの構造を組み立てる。
情報を中継するに残さずもれ、抜けて有能なだけれどもしくなる。

原文

孙子曰：凡兴师十万，出征千里，百姓之费，公家之奉，日费千金，内外骚动，怠于道路，不得操事者，七十万家。相守数年，以争一日之胜，而爱爵禄百金，不知敌之情者，不仁之至也，非民之将也，非主之佐也，非胜之主也。故明君贤将，所以动而胜人，成功出于众者，先知也。先知者，不可取于鬼神，不可象于事，不可验于度，必取于人，知敌之情者也。

故用间有五：有乡间，有内间，有反间，有死间，有生间。五间俱起，莫知其道，是谓神纪，人君之宝也。乡间者，因其乡人而用之。内间者，因其官人而用之。反间者，因其敌间而用之。死间者，为诳事于外，令吾间知之，而传于敌间也。生间者，反报也。

故三军之亲，莫亲于间；赏莫厚于间，事莫密于间。非圣不能用间，非仁不能使间，非微妙不能得间之实。微哉！微哉！无所不用间也。间事未发，而先闻者，间与所告者皆死。

凡军之所欲击，城之所欲攻，人之所欲杀，必先知其守将、左右、谒者、门者、舍人之姓名，令吾间必索知之。

必索敌人之间来间我者，因而利之，导而舍之，故反间可得而用也。因是而知之，故乡间、内间可得而使也；因是而知之，故死间为诳事，可使告敌；因是而知之，故生间可使如期。五间之事，主必知之。知之必在于反间，故反间不可不厚也。

昔殷之兴也，伊挚在夏；周之兴也，吕牙在殷。故惟明君贤将，能以上智为间者，必成大功。此兵之要，三军之所恃而动也。

1. 22. 11/31. 水木到來日記

Next Society 付

(1) 古墳時代の文化影響。

正統な文化をもつた古墳

ハニタク-トコ- ナニツムトコ-

(2) 番号の重要性

番号の元

アリル一の城

アリル一アリル一美術

(3) 番号の重要性 10月15日

番号の重要性は、アーティストの個性。

アーティスト一度の

(4) 老子物語の山本さん。人の身体は37度。

体温は37度、組織は37度、筋肉は37度。

しかし、体温は37度。

(5) 頭骨の歴史と前歴。

頭骨は自滅する。

事実

→ 70年代後半より身体の分割化。

IBM

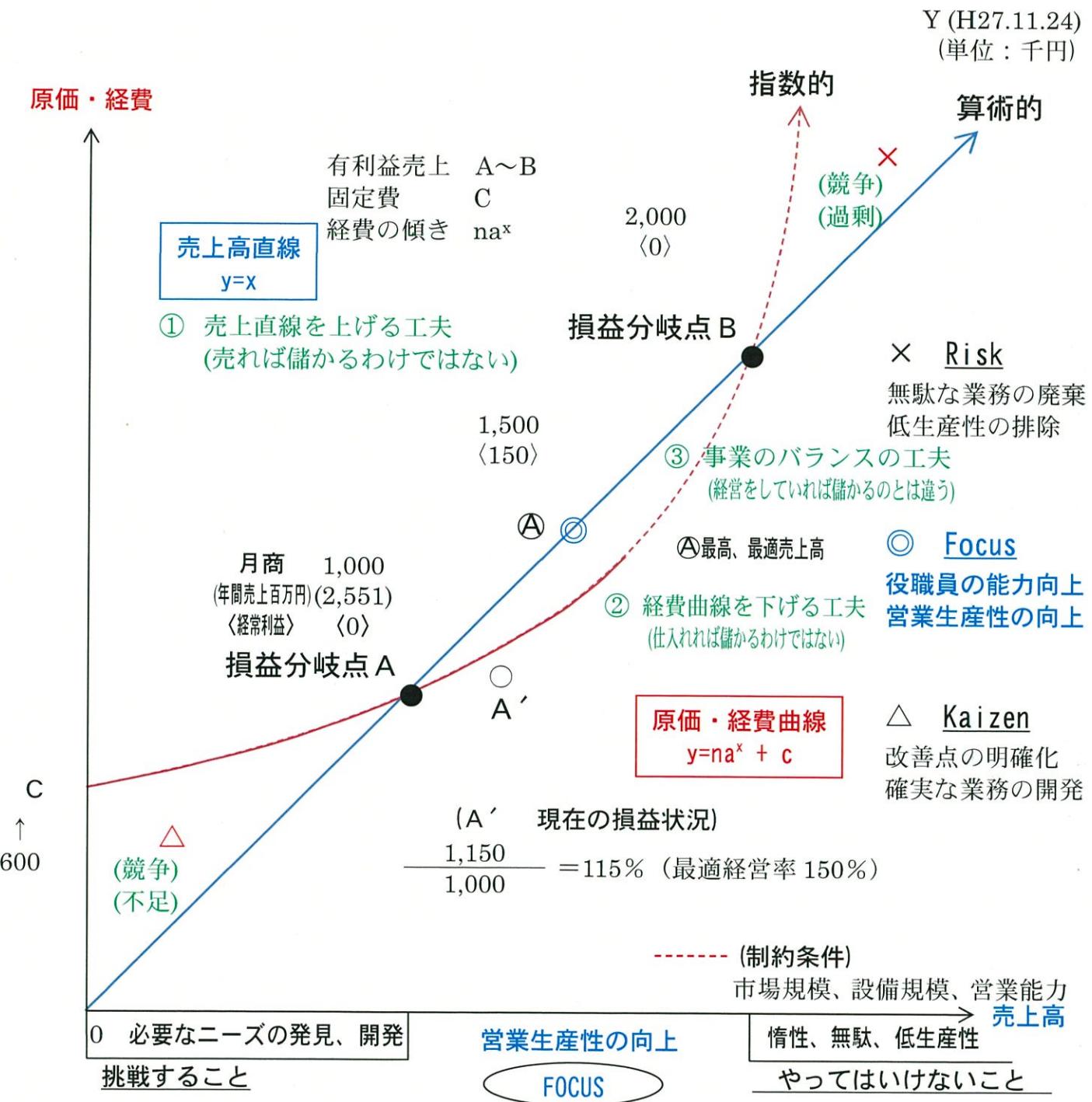
→

(6) 50年代経済の発展。

これから30年後も発展します。

経営の現状と可能性

(変化に対応する経営の重要性)



原価・経費曲線は遞増し、供給曲線のように弓なりに増加すると考えられる。従って、損益分岐点はA点とB点の二つとなる。

利益(効果)をあげられる点は限られており、Ⓐ点で最大となるが、企業はその点に向かって経営努力をし、それを維持するために絶えまない innovation と廃棄が必要である。

3. 明日のトヨタが果たすべき5つの課題

(1997.)

(1) フォーレントヨタの変容

15年後における企業統治の今後は大きく変わる

企業の所有構造の根本的大変化

現状の体制を踏まえ、問題を解決する
問題を直視し改善していく仕組み

(2) 情報入の新しい取り組み

高速計算機

情報処理の開拓

組織構成の変革

CFO、CIOの任せ

会計

情報の生産要素化 → 組織の

流れ

中核化

技術化

化

情報の収集・分析を根本的大

変革

ABC会員登録

会員登録システム

→ 将来開拓する道路(10-20年)

世界の経営者

世界を経営する → 世界の歴史を経営する。

(3) 外の世界に対する理解(技術的仕組み)

1990年代半ばの自動車の技術や生産、以降

他の産業の技術や市場を以下X-ray。

このことから企業内研究計画を実行。手と手をつなぐ

開拓性を強化していく。X-ray、データベース、AI研究、データベース

外の世界の情報を入力する

(4) どのCEOが本物か、いつ命を失うかと30-50年後の仕組み

(5) CEOの直接隣に取締役会議室がある場合、組織の生産性向上
が可能となる仕組みを用意する。



微分の定石

(すへは変化している)

秦は変化に対応した (司马遷)

会計と経営のブラッシュアップ

平成29年3月/5日

山内公認会計士事務所

次の図書等を参考にさせていただきました。(微分と積分なるほどゼミナール S58.6 岡部恒治著 日本実業出版社刊)

(微積分のはなし 大村平著 1985.3 日科技連出版社刊)

(イラスト図解微分積分 深川和久著 2009.6 日東書院本社刊)

(Excelで学ぶ微分積分 山本将史著 H24.8 オーム社)

I 世の中(顧客)の変化

その変化の
脈打を測出す。

つかつのように変化をする

極限を考える

1. 平家物語

祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響あり、沙羅双樹の花の色、おごれる者も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。盛者必衰のことわりをあらわす。形も、位置も、温度も、世相も、価値観も…すべてが変化する。

微分は変化の仕方を勉強するものである。

微分は、どう変化しているか (変化のようすを調べる) (動いているか)

この関係、どのようにして積分の計算に微分が入って来たか。

積分は、その結果どうなったか (動いた結果) — つかつ一面積

微分は一瞬の勢い、変化をとらえる。(動き)

瞬間の変化量 (カメラのシャッターで写真)

変動する変化量 (電車の中で感じる揺れ)

接線によって、豊富な変化

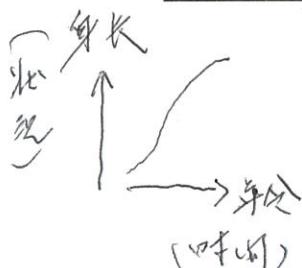
関数とは、x (ヨコ軸) が決まればy (タテ軸) も決まる (逆もあり) という x と y の関係性を表わすための道具である。

変化している瞬間の動き、傾きは、1点で接する接線で表す。

接線は、曲線に対して1点のみで接する。

このことの発展が積分の計算に貢献 (待望の到来) することになる。

微分は積分に対して、革新的な方法の導入となった。



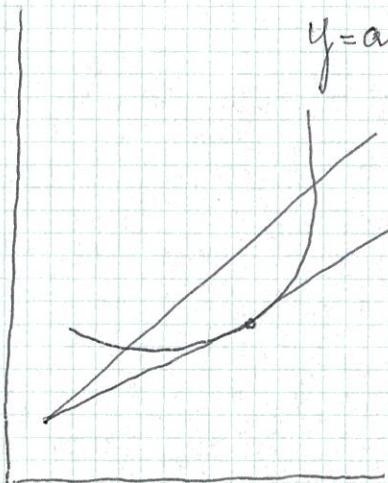
微分で身長を微分する → 身長の変化率

身長の変化率を積分する → 身長

PROGRAM MANUAL

K

PROGRAM NAME	PROGRAM NO.	PROGRAMMER
処理図	処理手順	



平均的速度を (平均速度)
(落下時間と距離)

速度の変化、重さ (距離) (各時刻での落下速度)

加速度
(瞬間的速度)

処理条件

走行距離を表す関数 $y = f(t)$

位置の変化、速度の変化、重さ $y' = f'(t)$

加速度 $y'' = f''(t)$

1mの高さから、初速15km/秒でボールを直上に投げ上げる。

1秒後のボールの高さは、 $y = -\frac{1}{2}9.8t^2 + 15t + 1$ (m)

このとき 1秒後のボールの速さは、

$$y' = -9.8t + 15 \text{ (m/秒)}$$

加速度は

$$y'' = -9.8 \text{ (m/秒}^2)$$

DATE

4. 微分を使った積分の計算

① 細長い長方形のたて $f(x)$ と横 $\Delta x (dx)$ を調べ面積を $\int f(x) dx$ とする。)

② 微分すると $f(x)$ となる関数 $F(x)$ を探す。

$$(F(x))' = f(x)$$

③ 関数 $F(x)$ に x の両端の値を代入した差が面積

$$\int f(x) dx = F(x)$$

(微分を使った積分計算)

① $f(x) dx$ を面積の式と表す
細かい面積を足す

② 微分すると $f(x)$ になる
関数 $F(x)$ を探す

③ あとは、 $F(a) - F(b)$ を計算し
て面積を求める

①の苦労を②③で解決できた!!

面積を求めようと苦労して、発見、解決!! 探して、求める!

(高校で習う方法)

① $F(x)$ の微分の公式を導く

② 積分 $\int f(x) dx$ の求め方を公式として学ぶ

③ 曲線 $y = f(x)$ で囲まれた面積が $\int_a^b f(x) dx$ で表されることを学び、公式を用いてその面積を計算する

微分や積分の応用としての③面積を求める。

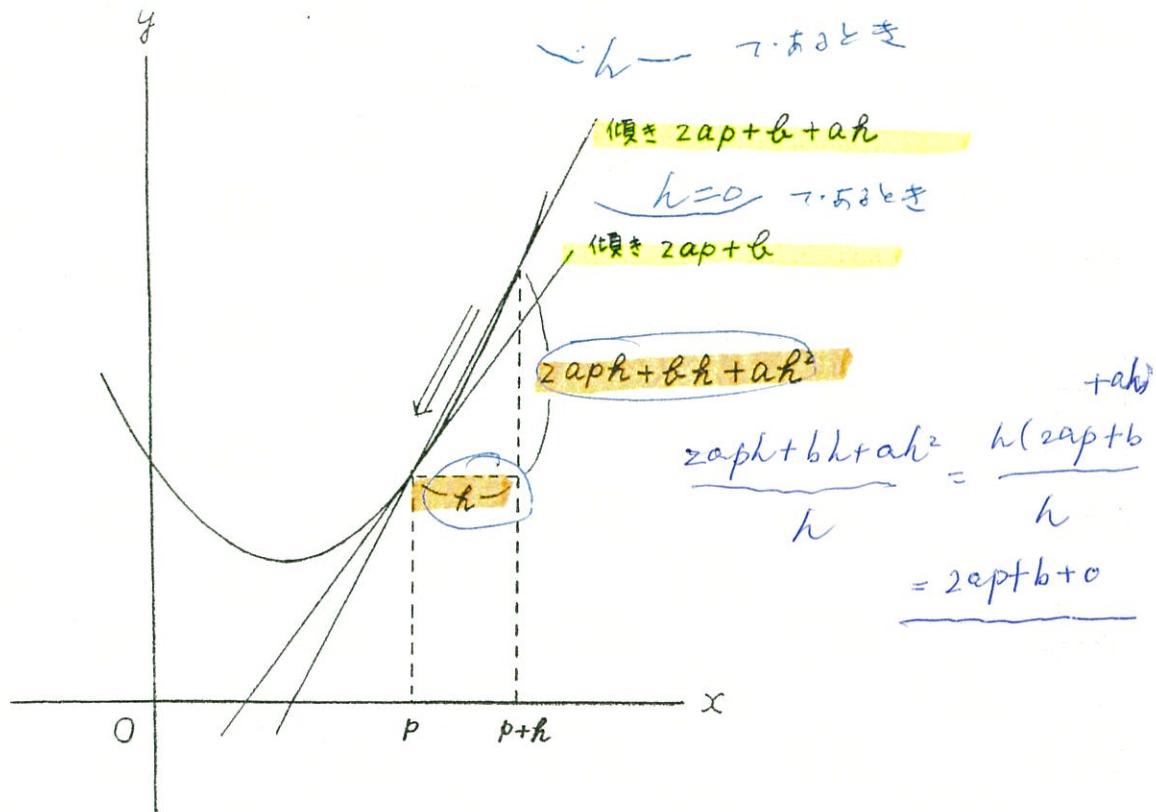
(4段の流れ) $y = ax^2 + bx + c$ の2次関数について

$$\lim_{h \rightarrow 0} \frac{f(x+h) - f(x)}{h}$$

$$f(x+h) = a(x+h)^2 + b(x+h) + c \\ = ax^2 + 2xh + ah^2 + bx + bh + c \quad (1)$$

$$f(x) = ax^2 + \underline{bx} + \underline{c} \quad (2)$$

$$\begin{aligned} f(x+h) - f(x) &= \frac{2xh + ah^2 + bh}{h} \\ &= 2x + b + 2h \\ &= 2x + b \quad (\text{極限}) \end{aligned} \quad (1)-(2)$$



道子さんが質問した。

「この結果は、きのうお茶の時間で求めた接線の傾きと同じ結果となっていますが、今日の求め方では、方程式のことや判別式のことなど何も知らなくても、すぐに $2ap+b$ という結果が出てしまうのに驚きました。ところで、きのうの接線の定義と今日の接線の定義は少し違うようです。直観的には同じことをいっているのはわかりますが、厳密にいえば、やはりそれぞれの定義で求めた傾きが一致して、 $2ap+b$ になるということから、この2つの接線の定義が一致することが判明するのだと思います。私の感じでは、極限を使う今日の定義のほうがずっとスマートだし、使いやすいと思いますが、どうなのでしょうか。」

「道子さんのいうとおりで、一般の場合、接線の傾きの定義は極限を用いる今日の定義のほうを採用します。そのことは実は微分という考えにつながるのですが、それは来週の主題にします。このように極限の考え方を用いると、2次関数でなくとも、グ

関数の極限

$\lim_{x \rightarrow 1} f(x)$ は存在しない、 $2x+1$ は極限 3 である。

$x \rightarrow 1$, $f(x) \rightarrow 3$, $x \rightarrow \infty$, $f(x) \rightarrow b$ だ。

$\lim_{x \rightarrow a} f(x) = b$ とき、 $b \in f(x)$ の極限(存在)。

この場合 ∞ の極限 $\frac{2}{x} + 1$ の極限 1 は存在する

(公式)

$$\lim_{x \rightarrow a} f(x) = \alpha$$

$$\lim_{x \rightarrow a} g(x) = \beta$$

$$\lim_{x \rightarrow a} \{f(x) \pm g(x)\} = \alpha \pm \beta$$

(1)

$$\lim_{x \rightarrow a} \{f(x) \cdot g(x)\} = \alpha \cdot \beta$$

(2)

$$\lim_{x \rightarrow a} \{f(x)/g(x)\} = \alpha/\beta \quad (\beta \neq 0)$$

(3)

$$\lim_{x \rightarrow a} \{c f(x)\} = c \alpha$$

$$\lim_{x \rightarrow a} \frac{\sqrt{1+x} - \sqrt{1-x}}{x} = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{1}{x} \left\{ \frac{(1+x) - (1-x)}{\sqrt{1+x} + \sqrt{1-x}} \right\}$$

(4)

(1)

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\sqrt{1+x} - \sqrt{1-x}}{x} = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{2x}{x} \left(\frac{1}{\sqrt{1+x} + \sqrt{1-x}} \right) = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{2x}{2x} = 1$$

1/2

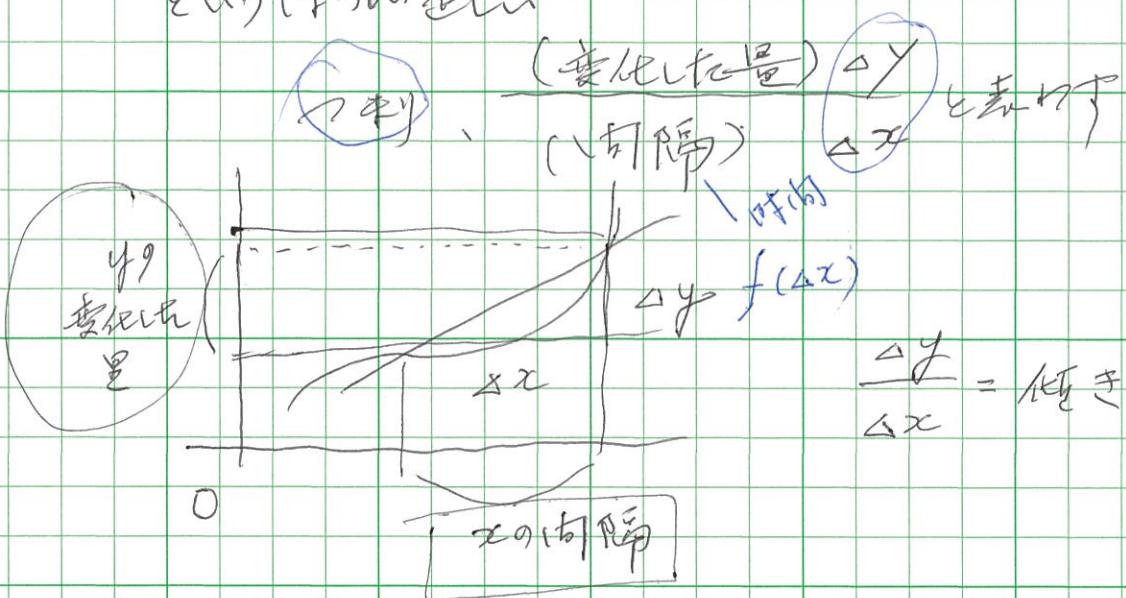
$x \rightarrow 0$ のとき
分子と分母とも零

$$\begin{aligned} & \lim_{x \rightarrow \infty} \left(\sqrt{x^2 + 2x - 3} - (x+1) \right) = \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{(x^2 + 2x - 3) - (x+1)^2}{\sqrt{x^2 + 2x - 3} + (x+1)} \\ & 4x - 4 = 4(x-1) \in x \text{ の } 3 \\ & \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{4(x-1)}{\sqrt{1 + \frac{2}{x} - \frac{3}{x^2}} + 1 - \frac{1}{x}} = \lim_{x \rightarrow \infty} \frac{4(x-1)}{\sqrt{1 + \frac{2}{x} - \frac{3}{x^2}} + 1 - \frac{1}{x}} = \frac{4}{2} = 2 \end{aligned}$$

微分

変化する前と変化後の差を用いて
変化する量と比例して変化した量を表す

これを「この点の傾き」と「この点の変化率」
という(手書き)



$$\frac{\Delta y}{\Delta x} = \text{傾き}$$

要するに 曲線 $f(x)$ の変化を直線 $\frac{\Delta y}{\Delta x}$ で表す

一般に、曲線より直線の(点の傾き)を求める!!

—— 微分、積分は共通する基本的な考え方 —

y を x で微分した式を $\frac{dy}{dx}$ で表す

Δx を小さくして行くほど $\frac{\Delta y}{\Delta x}$ が近づく(直線)

二重の意味で物事をカナンげな

(Δy の変化を分析する)

① 変化する量を直線で表現する

② 次数を 1 以下にする

指數関数、対数関数の定理

$$\lim_{x \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{1}{x}\right)^x = e (= 2.718281828 \dots)$$

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{e^x - 1}{x} = 1$$

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{\log_e(1+x)}{x} = 1$$

1.06 の定期 x 年後 2 倍
 $x = 1.06^x$

$$\log 2 = \log 1.06^x = x \log 1.06$$

$$x = \frac{\log 2}{\log 1.06} = 11.89 \dots \approx 12 \text{ 年}$$

平均変化率

勾配 $y = f(x)$ (2.6.4)

x の直線的な増加, a から $a+h$ まで

y の a から $f(a)$ までの $f(a+h)$ までの

a から $a+h$ までの Δx

$f(a+h) - f(a)$ を y の直線的な Δf とし

直線の傾き $\frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{f(a+h) - f(a)}{h}$ を 平均変化率 と呼ぶ

平均変化率 $\frac{\Delta y}{\Delta x} = \tan \theta$ と呼ぶ。

微分係数 (変化率)

平均変化率 $\frac{\Delta y}{\Delta x} = \frac{f(a+h) - f(a)}{h}$ の極限

$\lim_{h \rightarrow 0} \frac{\Delta y}{\Delta x} = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{f(a+h) - f(a)}{h}$ を 微分係数

動的極限 (直線関数 $f(x)$) の $x=a$ 附近的 微分係数
 (変化率) とする。

因数一導函数一接線

No. _____
Date _____

因数

$$y = f(x) = 0.2x^2$$

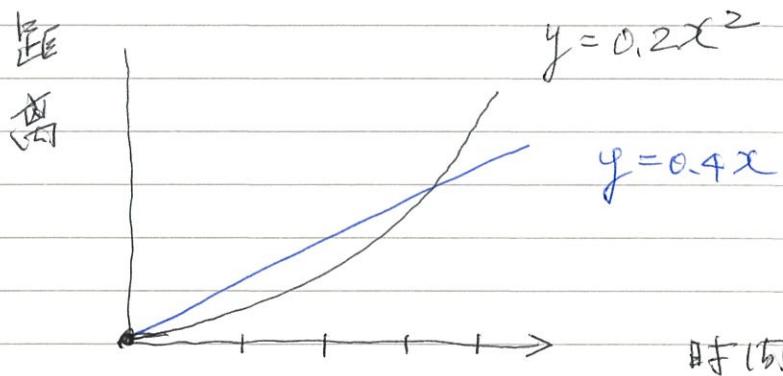
(落下時間と落下距離)

下は、ある質量の物体落下をき

落していく時間 x (秒) と

落下した距離 y (m) の関係を表したもの

となることをいさ



導函数

$$y' = f'(x) = 0.4x$$

(各時刻での
落下の速さ)

導函数の量の意味は、

時間の一単位増えて：

距離がどれくらい増えたかとす 増えた割合を

表わしている。時間につれて、この値が変化し、この

変化の仕方も因数と同じで

各時刻での落下の速さを表している

接線

関数 $y = f(x) = 0.2x^2$ (落下時間と落下距離)

導函数 $y' = f'(x) = 0.4x$ (各時刻での落下の速さ)

上のとおりの場合も $x=2$ のときの変化率の値
グラフ上の意味を考える

変化率を求めると、

$$x=2 \text{ から } x=(2+h) \text{ までの } h \text{ の差}$$

h の間に接線を引くと 落下距離は、

$$f(2+h) - f(2)$$

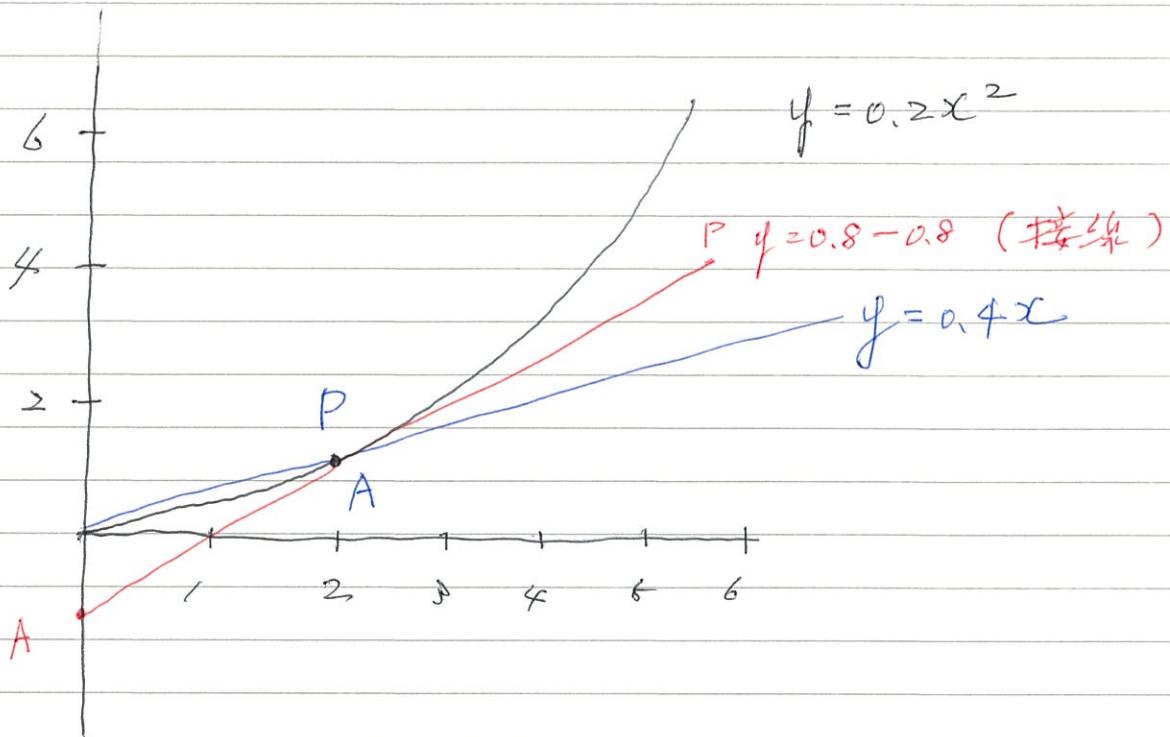
$$= 0.2(2+h)^2 - 0.2 \times 2^2$$

$$= 0.2(4+4h+h^2) - 0.2 \times 2^2$$

$$= 0.2(4h+h^2) = 0.8h+0.2h^2 \quad (\text{平均AP} + \text{残り})$$

この h を零に近づけていくと 点Pは点Aに近づく

h を0に近づけていくと 点Pは点Aに近づく
微分原理、導函数の定義



接線式は点 $(2, 0.8)$ を通り、

傾きが 0.8 の直線の式です。

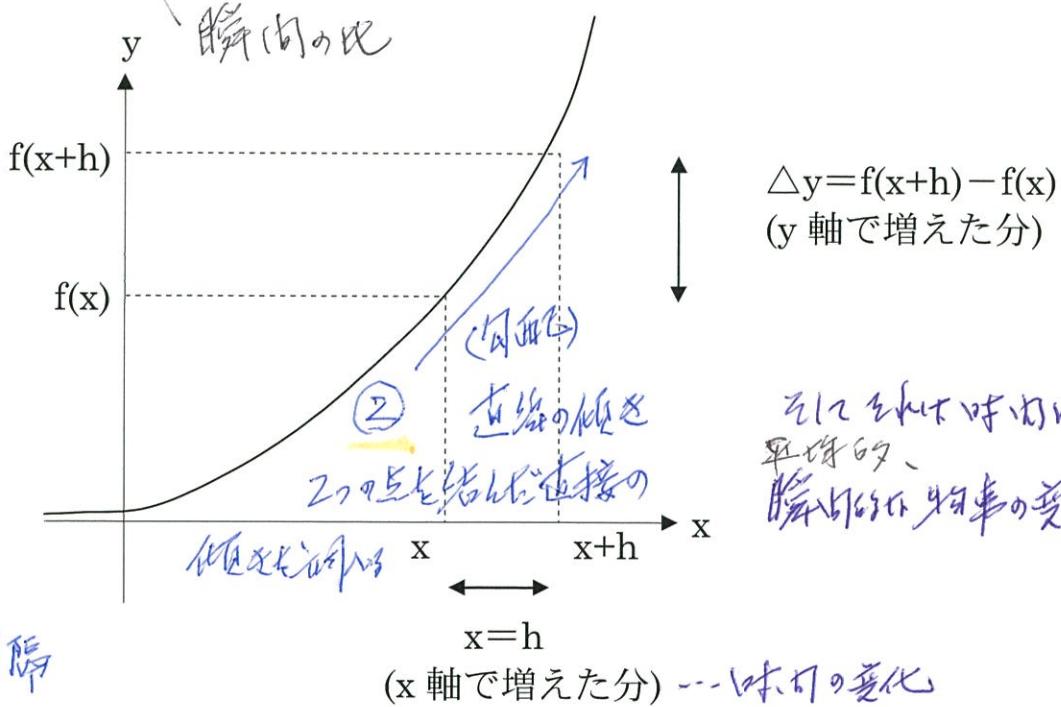
$$y - 0.8 = 0.8(x - 2)$$

$$y = 0.8x - 0.8$$

よって $(a, b) \in \mathbb{R}$ であるときの式は、

$$y - b = m(x - a)$$

(3) 微分とは要するに、 x 方向で増えた分量に対する y 方向で増えた分量の比である。 x (横軸) の変化に対する y (縦軸) の変化



$\lim_{h \rightarrow 0}$ h をどんどん小さくして行くと、最後には x 点での接線、傾き(微分)となる

即ち、 $f(x)=x^n$ は $f'(x)=nx^{n-1}$ となる

(4) まとめ

もとの関数 $f(x)$	微分した関数 $f'(x)$
① C (定数)	0
② x	1
③ x^2	$2x$
④ x^3	$3x^2$
⑤ x^n	nx^{n-1}
⑥ x^{n+1}	$(n+1)x^n$
⑦ $\log_a x$	$\frac{1}{x}$
⑧ a^x	$(\log_a a)x$
⑨ $\log_a x$	$1/(\log_a a)x$
⑩ $\log_a f(x)$	$f'(x)/f(x)$
⑪ $f(x)+g(x)$	$f'(x)+g'(x)$

底辺は長い過去

微分は、
今から過去=現在を
△xで+する

左側で傾き時間に対する
平均傾き、
傾きが物事の変化である。

今計は過去を集計し、
過去を積っていき。

現、分析という。
一分析と下瞬間の変化
をとらえて分析する。現
その変化の現在と将来の
意味を明確にする必要がある。

過去は死んでしまったもの
を今と分析しても意味がない。
分析とは現在と将来で
ある。これが過去の統計の
意味である。統計の意味。

歴史

済江
作成日 8/8 17:19
作成者

春秋初期に存在した国数は約200

戦国時代は約204個とされる

三川を経由する流域では3700年

一方で、諸侯生存の法則により西周時代の貴族制度が失われた

時代の変化に対するものは対応できなかったものが生まれる

そこでその人は古風へと戻る。

秦が天下を掌握するにつれて、天下一統。

地理的条件の有利さなどをから、天下の権力で天下（司马迁）

しかし、世の学者は、国連理念にかられ、秦王朝の滅亡を嘲笑するだけ

政治家を嘲笑したことになります（何より歴史を否定するのか。ない！）

司马迁の歴史家としての目は、必然の権力、諸侯生存の原則、歴史の流れ。

しかし、人の行動や考え方を記すのが目的でした。しかし同時に是非が付いていたのです。

周差春秋の崩壊

第2回

作成日

作成者

周差春秋の春秋時代の原因、大丈夫な江戸川河、
政治基盤の崩壊を主因とする。

周君の死(天子の死)と称しては、
南方の晉侯と越王が楚吳城。淮河の平定。

越江の平定による周の威、軍事問題处理の乏しさ、
七次大礼による物価は必ずしも高く。

秦の原初力、周の封建制度が本末倒置し、生産技術の進歩。

鉄器の出現

鐵器の普及による生産技術の飛躍的発展

土地の私有制

兵器の変革 由来の銅へ

馬の駕用 (射撃/弋射) 鎮車の产生

(密集隊形戦法による歩兵を主力とする野戦)

春秋時代の代表的戰爭

城濮の戰(BC632) 善基西周の初代君主が、10月
壬午戰() 楚趙西周、10月、3年

秦の晉侯と中原の子氏族との戦い、秦民の徹底的な自殺

變革先行王者(國化の君主)、韓魏趙(晋の變革)

隨地の君主 越 楚 越

諸侯の改革

2024.7.14

作成日

作成者

魏の文侯 (BC387年) 中央集权化

楚の悼王 (BC381年) 吳起
威王 (BC343年)
宣王 (BC324年)

秦の近代化

商鞅の改革 (BC338年)

(貴族の没落)

↓

諸侯の人物の集中、新官僚組織の形成
強化、世襲、賄賂、忌不孝、李斯

人を得よとす若

おれを葬りよとす若。

に沿う歴史の進行 (変革)

戦国時代に、官僚の登場によく幕を引く。
これは、直接に君主の命令から自己の抱負を
表現しようとする。

鬼の文化

貴才の公用の文化

人の集団の内部に差別結構の存在

西門豹視之，顧謂三老巫祝曰，是女子不子。
大巫女姫，為入報河伯。得更求好女，後日送之。
即使更卒共挾大巫女姫投河中。有頃，曰，巫嫗何久也。
弟子趣之。復一弟子入投河中。有頃，曰弟子何久也。復使一人趣之。
復挾一弟子河中。以挾三弟子。西門豹曰，巫嫗弟子是女子也。
不能自舉。大巫三老，為入自元。復挾三老河中。
長老更傳能者，皆盡悉。

秦の改革 范公と商鞅

作成日

作成者

秦の孝公 (BC361~BC338)

法家主義者 商鞅 律法化政策

孝公用商鞅。欲其法，則天下不不议已。

商鞅曰、疑行无名，疑事无功。

况且封长者人的行为，本末前逆后世俗非议；有独逆见解的人，一定会被一般人嘲笑。愚蠢人的话之后都弄不明白，聪明的人事先就能预见将要发生的事情。

不能和百姓谋划新事物的创始而可以和他们共享成功的欢乐。探讨最高道德的人不与世俗合流，成就大业的人不与一般人共谋。